

## 住まいを考える

東京都府中市立府中第四中学校

二年 北村 菜々香

先日、富士見市の水子貝塚公園という所で竪穴住居を見る機会があった。貝塚や土器などが発掘されていることから、約六百年前、ここは海に近く、人々が集落を作って暮らしていたのだろう。

私は竪穴住居の中に入って、縄文人の暮らしを想像してみた。穴を掘り、半地下の空間は保温性が高く、夏は涼しく、冬は暖かい、湿度がこもるのが欠点だが、炉で火を焚き、湿度を下げる。その煙は柱や屋根のかやの防虫効果となる。決して大きくはない住居の中で様々な工夫をしてすごしやすい住環境を整えていたのだと思うと、縄文人はとてもアイディアとサステナビリティの精神に富んだ人々だったのではないかと思う。

私は今住んでいるマンションに生まれた時から住んでいる。もっと家が広かったらな、プライベートな空間がもっと欲しいな、と思ったり、不満を言えばきりがない。そして、当たり前のように便利な家電に囲まれ、買ってもらった服を着て生活している。縄文人の暮らしを考えてみると、私の生活には当たり前が溢れすぎていて工夫がない。部屋が狭いと感じるなら、どうやったら広く使えるのかもっと考えてみようと思う。どんな部屋にしたいか、どうなったら便利か、部屋が片付いたら、そこで何をしたいか、そう考えるとちょっと面倒な片付けもワクワクする。自分のことがきちんとできれば、きっと家族も喜ぶだろうし、ますます快適な暮らしになると思う。

縄文人が住みよい竪穴住居を作り、集落を作り、助けあって暮らしていたように私も今いる場所でどうしたらより良い暮らし方ができるか、自分も周りの人たちも幸せに暮らしていけるか、考えていきたい。